



平成30年1月1日現在
世帯数： 838戸(-11)
人口：1521人(-21)
男： 730人(-6)
女： 791人(-15)

年末年始の風物詩

親子餅つき大会・小中学生書初め会

団塊世代が小中学生の頃は、年末近くになると、ペタンペタンと、餅をつく音が遠くで、近くで響いて、年の瀬を感じたものです。

鏡餅用は大小の丸型にし、飾る時に二段に重ね、上にダイダイ又は代用として温州みかんをのせ、作られました。餅を三段にしたり、紅白にしたり、砂糖で形作ったりと地域によって違いがあるそうです。

正月にお雑煮として食べる餅は、適当な厚さに大きく伸ばし、一晩置いて四角く切り分け使いました。



最近餅つき機を使ったり、餅を買ってくる等で、風情を感じることは無くなりました。

12月16日第一地区公民館行事で、親子餅つき体験をしました。子どもがよろけながら一生懸命杵を持ち、一人4回ずつ交代して餅をつきました。ついた餅は柔らかくて熱く、格闘し、餅粉まみれになり、子どもたちの独創的な鏡餅を作りました。

鏡餅の飾り方については、年末28日までに準備して飾り、正月初日の出に、神様をお迎えし、餅に宿るものと言い伝えられ、それから鏡開きの11日まで飾ります。その後尊いお餅を食べると祝福や恩恵を受けられると考えられています。



ています。皆さん正月に良いことありましたかね。年が明け4日には書初めを行いました。小中学生17名が学校の宿題も兼ね参加しました。

先生の手本、学校の手本を参考にそれぞれ筆を走らせ、うまく書けた、傾いた、左右バランスが悪い等々指導を受け練習を重ね、提出用の一枚を書き上げていました。

お茶会の終わりに、先生より励ましの言葉を頂きました。「先生も初めはへただった、だからこそひたすら努力を重ね、今がある。かといって今でも、もっと上手になりたいと努力をしています」と。先生も92歳となり、体の衰えは努力のみで如何ともなりません、その向上心は、私もですが、その向上心は、私もから見ても、はつらつとした気概を感じさせると、見受けられます。

今年の年頭に当たり、有意義に人生を楽しむためには、努力と向上心を持って、小さくても目標をたて過ごして行こうと、改めて考えさせられました。

Presented by 視聴覚委員会



1月13・14日
多くの人でにぎわう
「松本あめ市」



「本町五丁目あめ市」
本町4・5丁目では、昔ながらの正月10日の夜に祭礼が行われます。



『中町2丁目 ふれあいサロン』

皆さんが、困った時にはお互いに協力し合えるような人とのつながりのきっかけ作りになればと、茶話会やレクリエーションなどをして、心の輪を広げていけたらいいなと思いはじめました。

何から始めたら良いのか悩んでいた時に、第一地区の職員の方々からいろいろとアドバイスをしていただき始めることができました。

また、幸いにも中町には蔵シツク館があり、一部を公民館として使用できるため、集まる場所を心配することなく開催できました。

初回は7月12日に開催しました。血圧測定、腕肩のストレッチ、脳トレ体操を行い、ゲームでは「こんなに笑ったこと久しぶり」と涙をふきながら笑って楽しんでる方もいました。私も爆笑しながら、こんなにも皆さんに喜んでいただけるなんて！サロンを始めて良かったと思えました。茶話会でも会話が弾みあつという間に時間が過ぎていきました。

2回目は8月に町内公民館

活動も兼ねて、安曇野へブルーベリー摘み取り体験に出掛け、3回目は9月にゲームやおカリナの演奏に心が癒されました。11月はマジックショーを観覧し、驚きと笑い絶えないひとときを過ごすことができました。5回目となる1月のサロンで今年度は終了となります。

皆さんに協力また参加をしていただき3回、4回と続けるうちに心のつながりもできてきました。積極的に手伝わってもらい、「毎回サロンに来るのを楽しみにしています」などと聞くと企画は大変ですが、楽しみにしている人がいると思うとやりがいもあります。これからもサロンを通じて多くの方とふれあえたら良いなと思えました。

町会長 海川 定雄



第4回サロン「マジックショー」の様子

忘れられない昨年の7月11日。その日は孫の1歳の誕生日であった。しかし、その日は家業の飲食店に大人数の予約があり、じいちゃんも娘も私も誕生日などすっかり忘れてしまっていた。私の役割は孫の世話をしながらカウンター内の仕事をすることである。その日の午後も乳母車に孫を乗せて散歩に出かけた。まだ歩けない、しゃべりもしないの



に彼なりのお気に入り入りのコースがあり、スポットがあり、指で行く方向を指示する。その日は花時計公園。バルコ入口の脇には大きな錦鯉がたくさん泳いでいる。しばらく鯉に興奮した後公園内の木陰に移動。少し広い場所です、8人の若者たちが大縄跳びをしていた。孫はそれに魅せられてしまったように両手を振り、大声で叫ぶのでその若者たちの近くに乳母車を止めた。

金髪、茶髪の男の子、片耳ピアスの子、Tシャツも色とりどりの黒い短パンという姿に、私は「今どきの若者か」ぐらいの気持ちだった。乳母車のすぐ脇に座りこんでいた2人の女の子が孫を見て、「わあ、かわいい、いくつですか。」と聞いてきて私はやっと気づいた。今日はこの子の誕生日だった。今日がちょうど誕生日で1歳になったの」と答えるとおめでとうございませ」と言いつつ立ち上がり、大縄跳びをやめて休んでいる仲間の方へ行き、全員で私たちの前に来て整列した。男の子に孫の名前を聞かれ「夏に輝くと書いてナツキというの」と答えた。そして突然「ハッピーバースデー トウユー」の誕生日の歌の合唱が始まったのだ。しかも「ハッピーバースデー、ディアナツキ」と、ちゃんと孫の名前も入れて。行き交う人々が皆足を止めるほど美しい声のそろった素晴らしい合唱だった。身内も忘れていた生まれ初めて初めての誕生日をこんな風に祝ってもらえることに大感激したのはもちろんのこと、その若者たちの爽やかさ、大人の部分をちゃんと示してくれたことに、ただただ感動してしまっただけだった。

私はこれから孫の誕生日につきあえる限りは、このすてきなプレゼントをもらった1歳の誕生日のことを話し聞かせていきたいと思っている。あの日の皆さん、本当にありがとうございました。

このあいだオープンした大型ショッピングモール。その施設だけで一つの街みたいですね。モールの内、「ハイカラ」な若者たちが目につき、ファッション誌からそのまま出てきたような二人連れ等、ちゃんとモールの雰囲気とマッチしています。子どもたちも目立ちます。

電車通り

そんな中で、マッチしないご老体も目立ちました。けっこうな「バンカラ」さんもいました。作業着に近い服装とドタ靴でリュックザック背負ってモートを闊歩して見えます。耳の早い知人の奥さんから聞いたのですが、このモールのシニア世代の隠れたウォーキングコースになっているとのこと。あの足ごしらえや背中が合点できます。ウォーキングと言えは郊外のイメージですが、街中というのも、言われてみればなるほどです。このモールのような好奇心も刺激されるコースなら、街の中を探索するのも一興と思つた次第です。我が街、狭いようで広い。新しい何かを発見するために、世のシニアたちよ、車を捨てて街に出よう、です。